

## 付録3 参考文献の扱い

研究成果の公表（論文・発表どちらも）で必須である、参考文献の扱いについて紹介します。

### (1) 参考文献はなぜ書くか

参考文献とは、論文や研究発表で、作成者が「参考にした」資料のことです。研究の世界では、他人の考えや意見を盗用してあたかも自分の考えの様に発表することは厳禁ですが、もちろん他人の考えや意見を自説に表現しない研究というものも説得力を欠くものになりがちです。そのため、参考にした資料を、参考文献や引用という形で紹介し、読者や聴衆に自分の論拠を示すのです。

これから説明する規則に従って文献の明示を正しくできれば、論文や発表は、確かな典拠のあるものとなり、説得力が一層増します。

### (2) 参考文献の具体的表記の仕方

参考文献の表記の仕方には、大別して①引用 ②参考文献リストの二種類があります。引用は、典拠となる資料の一文もしくは要約を論文に記すことで、先行研究と自分の研究がどのように関連しているかを明示するものです。一方、参考文献リストは論文を作成するにあたり、使用した資料を列挙するもので、論文の最後に必ずこれを作成します。

またどちらにも共通して言えることですが、図書や雑誌といった「資料媒体」に注意した表記が必要です。よくできた引用や参考文献リストでは、見ただけでその資料が「図書」であるのか「雑誌」であるのかが分かります。

引用の表記で特に注意すべきは、「正確に引用する」と「どの部分が引用かわかるようにする」ということです。また引用箇所は、「」で囲むか下線を引くことで明示します。

## ① 引用

例えば「桜木一郎」の研究を引用する場合、次の事例のような書き方をします。ここでは、引用部分を「」で囲んで明示する方法をとりました。（前掲『これから論文を書く若者のために』を参考に作成）

### ■ 文・節・詞の終わりに引用文献を入れる方法

#### ◆ 文の場合

「歩兵と騎兵の双方を有機的に活用することによって敵を包囲し殲滅するというハンニバルの考えた戦術は、それを駆使したのがローマ側のスキピオであったといえ、有効な戦術であることは証明されたのである。」（桜木一郎 2006）

#### ◆ 節の場合

「敵を包囲し殲滅するハンニバルの戦術は、有効な戦術である」（桜木一郎 2006）事は、現代でも有効である。

#### ◆ 詞の場合

組織の有機的活用に関する研究は、ハンニバル（桜木一郎 2006）についてのものがある。

### ■ 引用文献を主語とする方法

桜木（2006）は、「歩兵と騎兵の双方を有機的に活用することによって敵を包囲し殲滅するハンニバルの戦術が、現代の組織論でも有効である」ということを報告した。

### ■ 引用文献情報を、注記を使って文末にまとめる方法

「歩兵と騎兵の双方を有機的に活用することによって敵を包囲し殲滅するというハンニバルの考えた戦術は、それを駆使したのがローマ側のスキピオであったといえ、有効な戦術であることは証明されたのである。」

注2

……▶（文末） 注2 桜木一郎『世界史上に見る逆転事例：組織の有機的活用論』、仙台：岩切新聞社、2006, p.30

## ② 参考文献リスト

人文社会科学系の参考文献リストの書き方は自然科学系のそれとは異なり、一定の基準というのはありませんが、基本的には、論文を読んだ人が後からその文献に当るための十分な情報を、著者、参考文献名、出版事項の順で記載します。特に和書については、論文名は「」で、書名や雑誌名は『』で囲むのが人文社会科学系の特徴です。実際に記載する場合は、投稿する雑誌の規定に沿った記述の仕方をしますが、以下で書き方の一例を挙げましたので参考にして下さい。

### ■ 単行本：和書（通常）

著者『書名』、出版地：出版社、出版年

例) 森村泰昌『美術の解剖学講義』、東京：筑摩書房、2001年

### ■ 単行本：和書（翻訳書）

原著者『書名』、翻訳者、出版地：出版社、出版年

例) ゲーテ、ヨーハン・ヴォルフガング・フォン『色彩論』、木村直司訳、  
東京：筑摩書房、2001年

### ■ 単行本：洋書

著者（姓,名.） 書名（イタリック斜体字）. 出版地：出版社, 出版年

例) Kane, Robert. *The Significance of Free Will*. New York: Oxford University Press, 1996.

### ■ 雑誌論文・記事：和雑誌

著者「論文名・記事タイトル」、『雑誌名』 巻次、ページ

例) 武藤浩史「『ドラキュラ』と声の世紀末」、『英語青年』  
1999年1月号(No.144)、600～604頁

■ 雑誌論文・記事：洋雑誌

著者（姓, 名.） “論文・記事タイトル” 雑誌名（イタリック）, 巻  
（出版年）：頁

例） Boatwright, Mary T "Theaters in the Roman Empire." *Biblical Archaeologist* vol. 53 pp.184-92.

■ ウェブ上の文書

著者・発行者「文書名」、URL（閲覧日：日付）

例） 東京都知事本局企画調整部企画調整課行政評価担当「平成 17 年度行政評価（事務事業評価）結果」、  
<http://www.chijihon.metro.tokyo.jp/hyokahp/h17/h17.htm>  
（閲覧日：2006 年 3 月 21 日）